



最高の笑顔で表彰式



緊張のスタート



ツール・ド・美ヶ原開催!
1672名が「激坂」に挑む!

平成29年7月1日現在

人口	14,149人
男性	6,846人
女性	7,303人
世帯数	6,483戸



美鈴湖畔を疾走

6月25日、あいにくの空模様。朝7時30分、チャンピオンクラスを先頭に、松本市野球場からゴールの美ヶ原高原までの21・6kmに挑みました。

第1チェックポイントの美鈴湖では、地元の子ども達が和太鼓で応援する中をトップ選手はスタートから15分あまりで通過する激走ぶり。

標高が上がるにしたがい、霧が立ち込めコンディションが悪くなる中、標高差1270mを一気に駆け上がりました。



「多文化共生」をテーマにした講演会では、フィリピン出身のゲスト講師が、外国暮らしや子育てなど自らの経験から「お互いを理解すること、より良い松本になる」と話されました。



人権啓発推進協議会
7月4日、本郷地区人権啓発推進協議会総会及び研修会が開催されました。



浅間温泉手仕事市
7月1・2日、浅間温泉会館広場で「手仕事市」と「ふれあい音楽会」が開催されました。

天候が定まらない中、傘を手で大勢が訪れ、48の各テナムでは木工・手芸・陶芸等の自信作が並べられ、焼き鳥や手打ちそばなどの飲食コーナーも賑わいを見せていました。



季節の一枚【れんげつつじ】
6月下旬から7月上旬にかけて、美ヶ原高原では松本市の花・れんげつつじが見ごろです。



本郷公民館がテント購入
本郷公民館では、地区や町会での行事に使用していただけるテントを2張購入しました。テントの大きさは2間×3間(3.6m×5.4m)です。利用についてのお問合わせは本郷公民館まで。

人物紹介

横田第5町会 原 聡子さん



わたしの歩み

私の小学生時代は戦争で、「欲しがりません勝つまでは」のスローガンの時代でした。6年生になった昭和19年は修学旅行が中止、代わりに鎌田の小学校から歩いて諏訪大社まで戦勝祈願の一泊旅行になりました。当時の写真には、草履を履いた先生が写っています。物資の乏しい時代でした。

昭和20年4月に女学校に入りましたが、戦争は激しさを増して勉強にも気が入りませんでした。8月15日に終戦、考え方も一変し自由主義の時代となりました。しかし食糧難は続き、校庭は大畑となりました。陸軍演習場も開墾して畑となりましたが、あまり良い収穫ではありませんでした。それでも一年ごとに物資も豊富になり、学校生活も勉強中心になってきました。女学校が学制改革で蟻ヶ崎高校併設中学校となり、昭和23年に高校生になりました。高校ではクラブ活動や生徒会

活動が盛んで、私はテニスクラブに入り、夢中になって球が見えなくなるまで練習しました。自由で楽しい高校生活を送ることができました。卒業後は実家の手伝いをしておりましたが、昭和30年2月、仲人さんのお世話で横田に嫁いでまいりました。当時の横田地区では、庚申様、八日念仏、お十夜などの行事がありました。公民館で掛け軸をかけ、念仏をあげ、当番さんが用意したお茶うけでお茶をいただき、色々と話をして楽しい時間を過ごしました。高齢化で現在は行われていませんが、楽しい思い出です。私どもの家には稲荷社とお不動様があり、現在まで欠かさずお祀りを続けています。昭和49年に松本市と合併し、横田地区は3・5・6・7町会での新しい公民館活動が始まりました。田畑の宅地化が進み、必要がなくなった横田池は昭和55年に埋め戻され、運動場になりました。私は、その頃に始まった木彫の会の活動を40年近く楽しく続けることができました。この横田地区に深く感謝しております。(取材 K・C)

6/17 健康教室 (三才山町会)



三才山公民館で健康づくり課・甘利指導士による健康教室が開催されました。50代から80代の30名の参加者が、ゲーム感覚の脳トレや健康体操を楽しみました。

お茶のみサロン (浅間温泉第2町会)



町会ボランティアの熱意により、お茶のみサロンが開設されました。年代にかかわらず、「気楽な談話室」として、毎月第2木曜日に定例会として開催されます。

7/6 夏まつり (のぼら保育園)



「みんなが楽しめるお店っこをしたい!」と年長児が計画・準備してきた夏まつり。おもちゃ、アクセサリー、たこ焼き、綿あめ、金魚すくい…。出店の品物は、全て子ども達の手作りです。年中以下の子ども達は、スタンプラリー形式で「お買い物」を存分に楽しみました。

公民館講座等

6/4 御殿山親子ウォーキング



本郷地区子ども会育成会との共催事業「御殿山親子ウォーキング」が開催されました。行き帰りに浅間温泉の文化財を見学しながら、親子の絆を深めるウォーキングでした。

6/28 親子でホテルを見よう!



今年で17年目の活動を迎えた「浅間温泉ホテルの里づくりの会」の皆さんの説明を聞き、約30名の参加者が夜空を幻想的に舞うホテルを観察しました。